

自分の殻を破る  
原動力は？

未来を描く！ 創る！  
イノベティブな  
生徒たち

第10回

# 教育格差の解消を目指して、 無料のオンライン塾を高校生が運営

はまだ そう た  
**濱田颯太**さん（高校3年生）

兵庫県・私立三田学園中学校・高校

## 教

育格差をなくすため、無料の  
オンライン塾の運営等を行う

学生団体「Get CHANCE」。同団体  
を立ち上げた濱田颯太さんが教育格  
差の問題に関心を持ったのは、高校  
1年生になった春、父親が経営する  
飲食店の売り上げがコロナ禍で減っ  
たことがきっかけだった。家庭の雰  
囲気も殺伐とする中で、私立の学校  
に当然のごとく通う自分が、いかに  
恵まれた環境で育ててもらっていた  
かを痛感したという。

「日本の子どもの7人に1人が貧  
困世帯だという事実は知ってはいま  
したが、自分自身が生活の不安に直  
面したことで、初めて教育格差を現  
実の問題として捉えました。そして、  
親の収入など、子どもの力ではどう  
にもならないことが理由で、子ども  
の今や未来を奪うようなことがあつ  
てはならないと考えました」

濱田さんは、臨時休業中に受けた  
オンライン授業の経験から、無料  
のオンライン塾を思いついた。しか  
し、実際に行動に移すのは容易では  
なかった。

「高校生の自分が教育格差の解決  
に取り組んだら、周りの人はどう思

読者の先生方がご存じの「イノベティブな生徒たち」をご推薦ください！

ご推薦いただける場合は、右の2次元コードをスマートフォン等で読み取っていただき、フォームに沿ってご推薦内容をご入力ください。



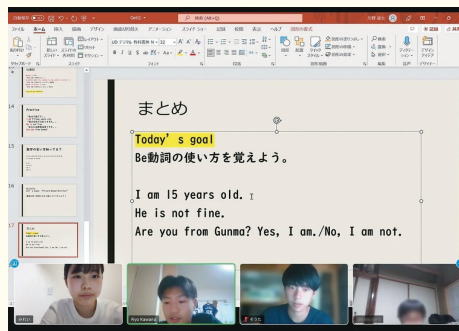
## 教師たち



兵庫県・私立  
三田学園中学校・高校  
高校3学年主任  
おおもと きょういち  
**大本共一**

### 自分の殻を破る 次の生徒を応援したい

経済的に苦しい家庭の子どものために、無料のオンライン塾を立ち上げようとしていることを濱田さんから聞いた時、私は、「クラスで率先してみんなのために動いていた彼が、ついに社会へ一歩踏み出し、見知らぬ誰かのために動き始めた」と感動しました。濱田さんは私に、「高校生にもできることはあるはずだから、自分の殻に閉じこもるのはやめようと思った」と話してくれました。次世代のリーダーを目指す同世代の仲間との出会いが、これほど人を突き動かすものなのかと、驚きながら彼の話を聞きました。濱田さんに触発された生徒の中に、不要になった書籍を集めて下取りに出し、貧困で苦しむ海外の人たちを救う活動に募金するといった次の動きも生まれています。あと一歩を踏み出せなかった生徒たちが、自分も殻を打ち破ってみようと思った時、みんなで応援する学校でありたいと思います。



無料のオンライン塾の開講に向けて、運営にかかわる高校生たちで行ったデモンストラレーションの様子。

うだろうかと考えました。きっと『できるわけがないのに無駄なことを』と冷めた目で見られたり、『あいつ、何を粋がってるの』とSNSで嘲笑されたりするのではないか……。そ

## 転

んなことを考えてしまいました」  
機となったのは、高校2年生の夏、福岡県で開催された次世代のリーダーを養成するサマースクールに参加したことだった。全国から集まった約140人の高校生と、日本や世界で活躍する講師の話聞き、社会問題の解決について議論を積み重ねた2週間が、濱田さんを変えた。

「周囲の目を気にせず、自分の信念に基づいて行動している経営者の話を聞いたり、既に社会問題の解決のために活動を始めている高校生と話したりする中で、自分も殻に閉じこもっていないで行動を始めようと決意しました。そこで、サマースクー

ルの仲間たちに声をかけ、賛同してくれた27人と『Get CHANCE』を立ち上げました」

「Get CHANCE」の運営費用は、街頭募金やクラウドファンディングで集めた。そして、2022年6月、無料のオンライン塾が6人の中学生を受講生に迎えてスタートした。ボランティアの大学生や社会人が講師を務め、濱田さんら高校生は学習の取り組みなどの相談に乗っている。さらにオンライン塾と並行して、不要になった参考書や本を回収し、子ども食堂や児童館などに届ける取り組みも、全国の仲間と進めている。子どもをオンライン塾に参加させたいと思っている保護者との折衝

も高校生の仕事だ。相手の希望と自分たちにできることの間ギャップがあり、そのギャップを埋めるのに苦労することもある。また、『Get CHANCE』のウェブサイトに、「無料だと、子どもが『助けてもらって当然』という考えになってしまおう」「本当に支援を必要としている人には、そのやり方では届かない」といった批判が寄せられることもある。

「確かに、自分は恵まれていて、大変な人のことを本当に理解できているかどうかは分かりません。今の活動にも改善の余地は多いと思います。でも、仲間と一歩を踏み出した今、自分の至らなさに目を向けて萎縮するのではなく、みんなの力でもっとよりよい活動になることを信じ、続けていくことが大切なのではないかと考えています」

### 学校プロフィール

**設立** 1912(明治45)年  
**形態** 全日制/普通科/共学  
**生徒数** 1学年約280人  
**2022年度入試合格実績(現浪計)**  
国公立大は、京都大、大阪大、神戸大、大阪公立大、兵庫県立大などに118人が合格。私立大は、同志社大、立命館大、関西大、近畿大、関西学院大などに延べ1012人が合格。